

浜松市 市政100周年記念事業 浜松城天守門の復元整備

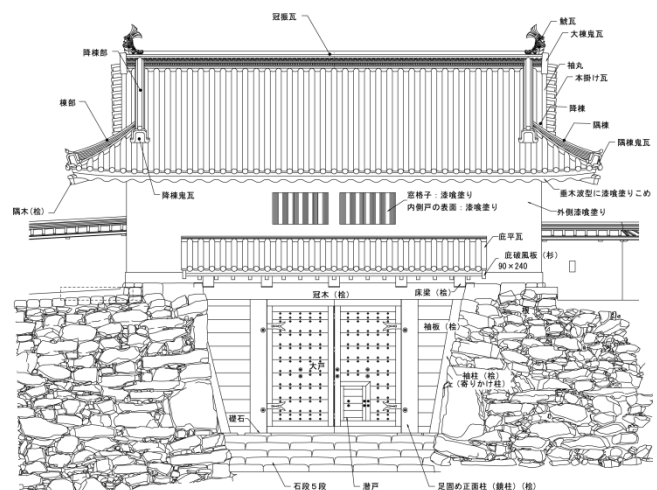


浜松市の市政100周年記念事業として浜松城公園内で天守門の復元工事が進められています。天守門は、江戸時代から明治6年まで浜松城の天守曲輪に建っていた櫓門と呼ばれる建物です。

(株)フジヤマ文化財研究室では、平成23年度から浜松城天守門の実設計に取り組み、平成24・25年度は設計者工事監理を行っています。平成24年10月から始まった天守門工事の様子をご紹介します。

天守門工事の様子

- | | |
|----------------|----------|
| ● 平成24年10月 | 工事前 |
| ● " 10月～ | 木材の伐採と乾燥 |
| ● " 11月～12月 | 礎石と石段工事 |
| ● 平成25年01月～02月 | 基礎杭設置 |
| ● " 05月～ | 木材の加工 |
| ● " 07月～ | 建方 |
| ● " 08月～ | 現場説明会 |
| ● " 09月～ | 漆喰塗り |
| ● " 09月～ | 土塀 |
| ● " 09月～ | 屋根・瓦工事 |



天守門設計図(正面)

平成24年10月 工事前



①工事前の様子、この石垣の切れ目に門を建築します。



②天守曲輪は、樹木や石などを撤去して、見晴らしがよくなりました。江戸時代の曲輪の景観はこのようなものだったのでしょうか。



③平成24年10月17日、浜松城本丸家康像の前で安全祈願祭を行いました。



④安全祈願祭には、市長、家康君と関係者が出席しました。



⑤藤山社長が鍬入れをしました。

平成24年10月～ 木材の伐採と乾燥



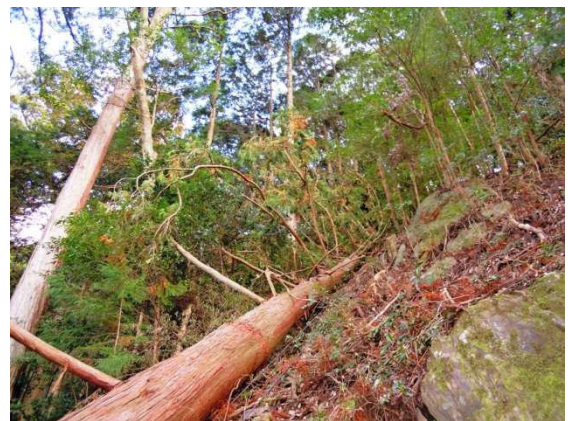
①天守門に使う木材は、市内の山林から伐採しました。写真は天竜区横山町の伐採現場付近の様子です。このような急傾斜地に育つ良質の天竜材を使います。



②平成24年10月前後に、杉、檜、松の大断面木材を伐採しました。



③この檜は直径50cmあまりもあります。



④伐採した木材はその場で2ヶ月程度「葉枯らし」をします。枝葉をつけたまま、木材内部の水分を蒸散させました。



⑤伐採して葉枯らしを終えた材木が製材所で荒挽きされました。関係者が冠木(檜の正面梁材)の含水率を確認しました。

平成24年11月～12月 礎石と石段工事



①石垣の間の地下を、門柱の礎石面まで掘りました。門の礎石や階段石周辺部を改めて調査しました。



②中央に門の控柱礎石が露出しています。発掘作業をしている方の後側の土層を見ると、どのくらい深く礎石が埋まっていたのかが分かります。門の両脇の石垣は、これより更に1m余り埋まっています。



③明治時代以降に設置された石段を撤去し、浜名湖北部産の珪岩で新たに石段を設置しました。

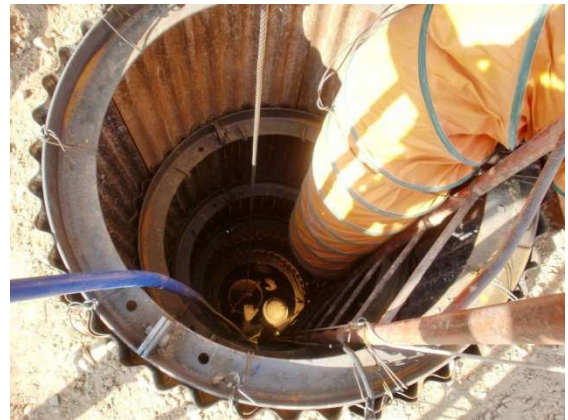


④古い礎石上に保護の盛土をして、新しい珪岩の礎石を設置しました。

平成25年01月～02月 基礎杭設置



①いよいよ櫓の基礎工事です。両脇の石垣上に基礎の杭孔を掘るためのやぐらを設置しています。



②直径1mの杭孔を人力で掘っていきます。石垣に圧力や振動を与えないように、重機を使わず、全て人力で掘りました。作業員さんがバケツに土砂を入れています。



③バケツで掘り出した礫まじりの土砂です。土壘内部の様子がわかります。



④杭の上部に建物の重さを支える耐圧版がのります。鉄筋を所狭しと並べ、ここにコンクリートを打ちます。

平成25年05月～ 木材の加工



①天竜林業高校の実習で、檜の床板に鉋(かんな)がけをしてもらいました。大工さんに指導してもらい、学生さんが幅30cm、長さ4mの杉に鉋をかけていきます。



②木工事の作業場では、木材の加工が進んできました。



③直径45cmほどもある内冠木(背面側梁材)の仕口を加工しています。



④大工さんが檜の柱の長ホゾの加工を説明してくれました。

平成25年07月～ 建方



①天守門の建方用足場が設置されました。



②7月22日、いよいよ天守曲輪西側の急坂から木材が現場に運び込まれます。天守台の石垣に当たらないよう、細心の注意を払ってトラックを運転しています。



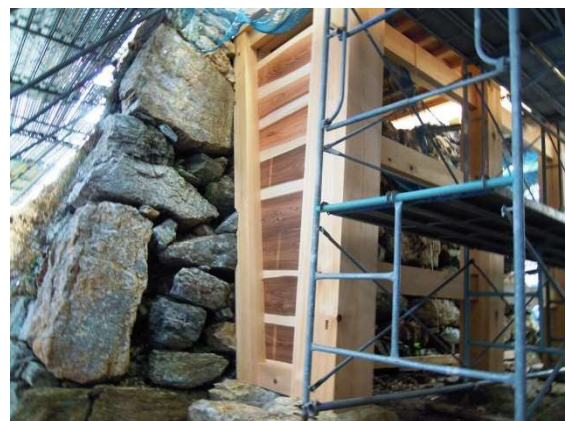
③門の控柱とダボの堅木です。門柱と礎石は江戸時代と同じように、ダボで接続されます。柱底面は、礎石の形状に合わせて削られています。



④門の添柱を設置しています。クレーンで吊り込みながら、柱を据えました。



⑤添柱は、あらかじめ石垣の形に合わせて削ってあるので(ひかりづけ)、石垣にピッタリとはまります。



⑥門扉脇の袖板が設置されました。右が断面33cm×24cmの鏡柱、石垣寄りが添柱です。

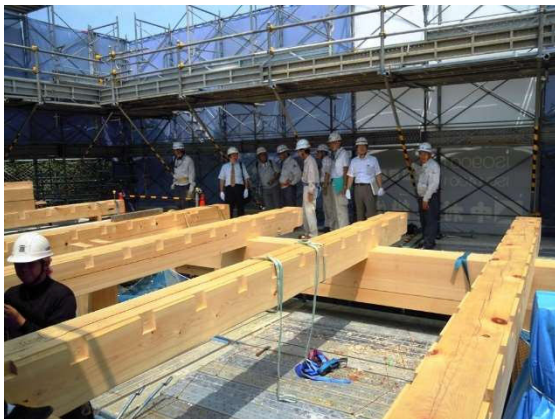
平成25年07月～ 建方(つづき)



⑦門柱は全て礎石にひかりづけされています。礎石の間に排水用の隙間があげられています。



⑧門柱が設置され、3本の通し貫で固められました。



⑨檣の床梁が設置されました。工事を監修いただいている広島大学の三浦教授が現場確認にいらっしゃいました。



⑩檣の柱を柱盤に建て込んでいます。



⑪床梁を持ち出して、門扉上の底を支える出桁をかけています。



⑫野物の梁の上に軒桁が乗り、小屋の骨組みが組み上がってきました。

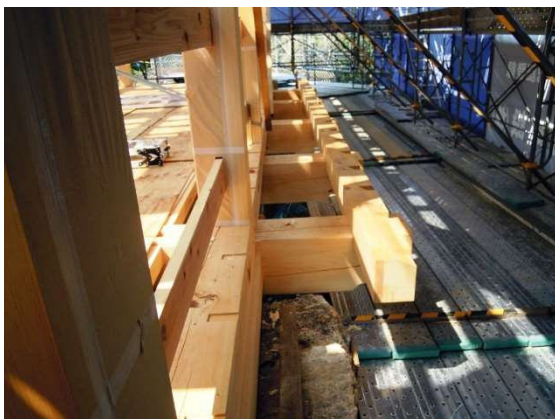
平成25年07月～ 建方(つづき)



⑬小屋の骨組みです。梁、軒桁、小屋束が設置されています。上部に突き出ているのが、大棟の骨格となる束柱です。



⑭檜の24cm角の柱が18本立ちました。横方向に貫が取り付けられています。



⑮門扉上部の庇の骨格ができました。



⑯檜の屋根の垂木をかけています。垂木は普通の住宅の柱ほどの太さがあります。

平成25年08月～ 現場説明会



①8月8日に県下の社会科の先生150名程が現場見学に訪れました。順番待ちをしている方が西側通路まであふれていました。



②先生方が檼の屋根部分の説明を受けています。

平成25年09月～ 漆喰塗り



① 櫓と土塀は白漆喰で塗り込めます。施工に先立ち、漆喰塗り壁の見本を作成し、漆喰メーカーの方に説明を受けました。



② 庇の漆喰塗りは中塗りの状態です。垂木を波型に塗り込めています。



③ 屋根の軒裏を下から見上げた様子です。こちらも中塗りで、波型に塗り込めています。

平成25年09月～ 土塀



①土塀の骨格ができています。



②土塀にあけられた矢狭間です。



③土塀の下地ができてきました。この上に漆喰を塗ります。



④悪天候の中、市長、両副市長をはじめ職員の方々が、現場視察にいらっしゃいました。



⑤塀瓦がのり、控え柱が設置されました。控え柱の足元は柱と石を相欠し、帯鉄で巻いています。



⑥塀瓦は、浜松城内でみつかった瓦片をもとに復元しました。

平成25年09月～ 屋根・瓦工事



①屋根の下地と大棟の骨格ができてきました。



②瓦が現場に搬入され、いよいよ屋根葺きが始まります。軒丸瓦と軒平瓦の様子は、浜松城から出土した瓦をもとにデザインしています。



③鬼瓦につく井桁紋です。乾燥・焼成後、鬼瓦に取り付けます。



④屋根瓦葺きがだいぶ進んできました。



⑤破風部分です。鬼瓦の中央に家紋がつきます。



⑥門の庇に瓦が載りました。瓦一枚の三分の二を次の瓦に重ねて葺いています。壁面との取合いに、雨仕舞いの銅板が取り付けられています。

平成25年09月～ 屋根・瓦工事（つづき）



⑦鯨瓦の製作が進んでいます。かわいい顔をしています。



⑧乾燥前の鯨の全体像です。ここに腹びれ、尾びれを取り付けると、ほぼできあがりの姿です。高さは約66cmで、ひれや胴体の模様は、浜松城から出土した瓦のデザインをもとに製作しました。



⑨屋根がほぼ葺き終わりました。あとは鯨を載せるだけです。



⑩隅棟の鬼瓦です。鬼瓦の上にかぶさるように延びているのが鳥龕（とりぶすま）です。